

## 83 Osteocalcin の測定

- 臨床的検討 -

山本逸雄, 高坂唯子, 曾根照喜, 北村暢康,  
青木 純 (京大 放核)  
鳥塚莞爾 (福井医大)

血中Osteocalcin をミドリ十字社の測定キットを用い各種疾患について測定し、その測定の臨床的意義について検討した。まず悪性腫瘍例において骨転移を伴う例においては、前立腺癌の骨転移例において高値を示す症例が認められたが、他の骨転移例においては正常範囲内にとどまった。原発性副甲状腺機能亢進症例においてはほとんどの例で正常値であったが低下症例においては低値を示す傾向が認められた。腎不全症例において著明な高値を示し、一方、骨粗鬆症例においては、正常範囲内にとどまる例がほとんどであった。活性型ビタミンD投与前後で測定された例において、血中Osteocalcin の増加が認められた。一方、糖質ステロイド投与例においては、その低下が認められた。以上の如く、その臨床的意義に関しては、なお検討すべき点が残されているが、骨形成の指標と考えることを示している。

## 84 血中1,25-dihydroxyvitamin D の測定

- 健常人における測定 -

森井典子, 神原順子, 阿曾沼和代, 曾根照喜,  
北村暢康, 青木 純, 山本逸雄 (京大 放核)  
鳥塚莞爾 (福井医大), 土光茂治 (京都市立病院 放)

健常人において血中1,25-dihydroxyvitamin D を測定し、その値の評価に関する検討を加えた。

まず血中1,25-dihydroxyvitamin D の値の変動性であるが、3分ごとの経時的採血による検討では値は変動しなかったが、1日のうちにおいては、10~20 pg/ml 程度の変動が認められ、特に深夜に低い傾向があった。また、1ヶ月の単位で見ると、日々その値は変動しており、各個人においても10~70 pg/mlの間での変動がみられたが、その変動には個人差があった。年齢別では、15才前後に高値を示したが、それ以外の年齢では一定しており、80才以上になってやや低下傾向が認められた。健常者に、活性型Dを投与し、血中1,25-dihydroxyvitamin D の値と腸管カルシウム吸収率との相関をみると、正の相関が認められた。

以上、血中1,25-dihydroxyvitamin D 測定の値の健常人における評価を行い、その値の解釈の問題点について検討した。

## 85 血中1,25-dihydroxyvitamin D の測定

- 各種疾患における測定 -

神原順子, 森井典子, 阿曾沼和代, 曾根照喜,  
北村暢康, 青木 純, 山本逸雄 (京大 放核)  
鳥塚莞爾 (福井医大), 土光茂治 (京都市立病院 放)

土光等により改良された高感度の血中1,25-dihydroxyvitamin D の測定法により、各種疾患についてその血中1,25-dihydroxyvitamin D を測定し、その測定の臨床的意義につき検討を加えた。

副甲状腺機能亢進症においては高値を示す例は認められたが、正常値を示す例が多く認められた。一方、副甲状腺機能低下症においては、低値を示した。甲状腺機能亢進症、肝硬変（特に原発性胆汁性肝硬変）、腎不全、骨転移や血液系悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症等において低値を示し、一方、妊娠末期例において高値を示した。骨粗鬆症、サルコイドーシス、腎癌に伴う高カルシウム血症、等においては、従来の報告と異なり、正常値を示す例がほとんどであった。

以上のように、血中1,25-dihydroxyvitamin D の値の測定は、種々疾患の骨病変、カルシウムバランスの理解の上できわめて有用と考えられた。

## 86 C GRP のラジオイムノアッセイ

金尾啓右, 石原静盛, 本田 稔, 宇佐美暢久  
(住友 R I) 森井浩世 (大市大 二内)  
越智宏暢 (大市大 放)

C GRP (Calcitonin gene related peptide) はアミノ酸37個のペプチドで脳細胞から産生され、一部の甲状腺疾患でその血中濃度が上昇すると言われていた。そこでC GRPの測定を試みた。

Amersham社の抗ヒトC GRP家兎血清、<sup>125</sup>I標識C GRP (2-[<sup>125</sup>I]his<sup>16</sup>) を使用し、標準品はAmerican scientific products, B F分離は二抗体法とした。リン酸緩衝液中での抗体濃度、トレーサー添加量、反応条件などを検討した。抗体(150tube/vial)と血清100μlを混和後1日でトレーサー(<10<sup>-6</sup>f mol/tube)を加えさらに3日後第二抗体を加えて処理した。測定感度40pg/mlを得た。甲状腺腫瘍(MC)でC GRP高濃度血清の希釈曲線は本標準曲線と良好な平行性を示し、カルシトニンとの交差性はみられなかった。正常値は173.1±63.9pg/ml(n=15)、性差はない。

MCの3例では260,570,15000pg/mlが得られた。

この他諸疾患の血中C GRP測定を行い、症例数を加えて検討中である。